

假名垣魯文 あだなま 戯作者。文政十一年一月六日江戸生れ、明治二十

七年十一月八日歿（二六元一六五）。舊名野崎文藏、諱能連、幼名兼吉、

庫七。別號かな垣りあるじ魯文、ろぶま、ろふ舞、佛骨庵、佛骨庵主

魯文雙、佛骨庵獨魯、佛骨庵生魯叟、假名垣主人、假名垣文藏、假名

垣又造記魯、八文字崖童忠、出子散人、古井黒石、柳堂珍海、哉垣、

大道散人、妙々道人、妙々道人魯叟、妙々道人魯文、妻戀淫史、在亭

散人、慕々山人、戀恋淫史、文の家おろか、文明舎化笑、斜月窓諸兄、

日本坊、杉の木鈍通、杉木鈍通、氷湖堂、氷狐堂、猫々堂、猫々道人、

猫淵魯叟、玩佛居士、玩物居士、當書山人、神奈垣魯文、福樹魯吉、

紀魯、編字入道軒、羅字隱居童叟、老年新史魯文、老牛紙積居士魯文

痴雙、並魯文、赤神二馬、野狐庵、野狐陳人、金花猫翁、金花猫翁魯

文、金花翁、鈍、鈍々子、鈍亭りあるじ、鈍亭魯文、鈍阿彌、青陽山

人、青陽軒、風雷山人、杏雨亭應一、杏雨亭鳳子、骨董屋雅樂、魯鈍

居士、魯鈍翁鳳子應一、鴛鴦繪子僧、黒牡丹等。

花笠文京門。幕末戯作仲間、狂言作者、繪師等と鳩合して粹江連と號

織。明治五年、教部省の二條の教憲發令に對し、山々亭有人（條野採

菊）と共に戯作界を代表して答申書と提出。八年『假名讀新聞』創刊、

十一年『いんげん新聞』翌年『今日新聞』各主宰。

著書 『相馬舊吏 編川新話 成田山御刺生記』（内題「成田山靈驗記」鈍亭魯文名、

安政二年新春・伊勢屋典兵衛板、品川屋久助梓）、『薄縁娘白浪』（初

編一冊）、『編一冊』（二編一冊）、『編一冊・慶應四年春吉

辰序・青盛堂主、四編一冊・彌生序・青盛文庫）、

『佐賀電信録』全二冊（神奈垣魯文名、明治七年



九月和泉屋三兵衛版、名山齋發售)、海陽許徽養和編『白門新柳記』

全二冊(批點、明治十一年八月貯書樓藏梓)、『戀相場花王夜嵐』

(猫々道人名、初編一三冊・明治十二年四月迄、二編一三冊・十四年

仲秋序・金沢堂)、『尾張の山』  
出雲の國會館藝者歌舞妓』(涼著、狐蝶園若

茶編輯、明治十六年十一月松江堂)、『七  
びん妖狐のお樂』(明治二十

二年五月十日文學堂)、『西洋道中膝栗毛』(野崎左文附言、大正十

五年二月)千白聚英齋『明治初期小説隨筆選』)、『西洋道中膝栗毛』

全二冊(小林智實平校訂、上卷・昭和二十二年七月、千五日、下卷・

十二月)千白岩波書店『岩波文庫』)、『安興案牘』(同校注、昭和

四十一年七月十一日岩波書店『岩波文庫』)等。